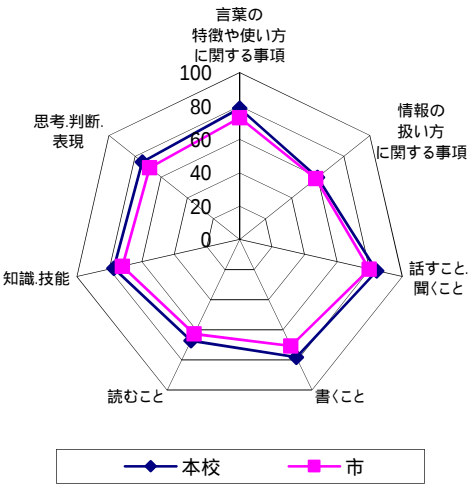


宇都宮市立陽東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	59.8	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	84.3	79.8	75.9
	書くこと	78.3	70.7	71.7
	読むこと	67.2	62.8	62.5
観点別	知識・技能	77.3	72.0	74.4
	思考・判断・表現	74.6	69.0	68.5

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

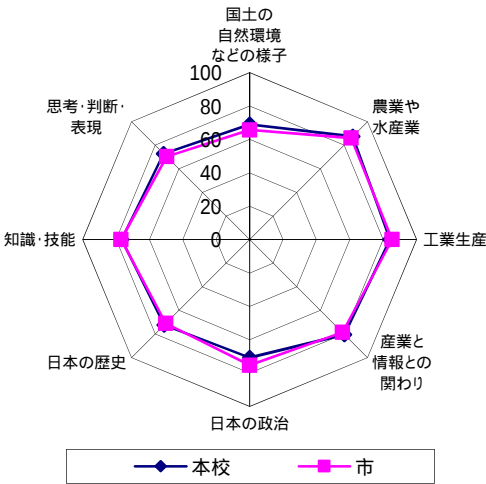
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の正答率を5.6ポイント上回っている。特に6学年配当の漢字の正答率が高い。 ● 尊敬語の使い方に関する問題では、市の正答率38パーセントは上回っているものの、正答率53.7%と低い。	・漢字や熟語については、プリントやドリルなどを用いた繰り返しの学習により、引き続き習熟を図る。 ・尊敬語や謙譲語については、知識として得たものを日常的に使えるような指導を心掛ける。
情報の扱い方に関する事項	○市の正答率を1.3ポイント上回っている。しかし、他の領域と比べると正答率は低い。	・資料の活用に加え、読む力をつける必要がある。他教科とも関連付けて、指導していく。
話すこと・聞くこと	○市の正答率を4.5ポイント上回っている。特に話し手の工夫を捉える問題では、正答率95.1%と高い。	・国語の時間以外にも、グループや全体での話し合い活動の機会を積極的に設ける。また、討論会のような、友達の意見を聞いて自分の考えを発表するような活動を充実させる。
書くこと	○市の正答率を7.5ポイント上回っている。特に、指定された長さで文章を書くことの正答率は13.3ポイント、2段階構成で文章を書くことの正答率は10ポイントと、市の正答率を大きく上回っている。	・普段の生活において、理由を明確にして自分の考えを話す活動を意識付け、自分の考えとその理由を、指定に沿って書くことにつなげるように指導していく。 ・研究で行ってきた「読みを深めるために書く」活動を引き続き行っていく。
読むこと	○市の正答率を4.4ポイント上回っている。特に物語文の心情を捉える問題では、市の正答率を10.5ポイントと大きく上回っている。 ● 説明文の叙述を基に文章の内容を捉える問題は、市の正答率を0.4%下回り、56.1%と低い。	・物語文では、文章に即した読み取りを継続して指導していく。説明文において、段落構成を意識した読み取りや、要旨を捉える読み取りの指導を心掛ける。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.0	65.7	67.0
	農業や水産業	87.5	86.1	77.5
	工業生産	84.1	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	80.5	78.6	69.6
	日本の政治	70.7	75.2	65.8
	日本の歴史	72.4	71.1	69.1
観点別	知識・技能	76.7	77.0	72.8
	思考・判断・表現	72.9	70.3	64.5

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

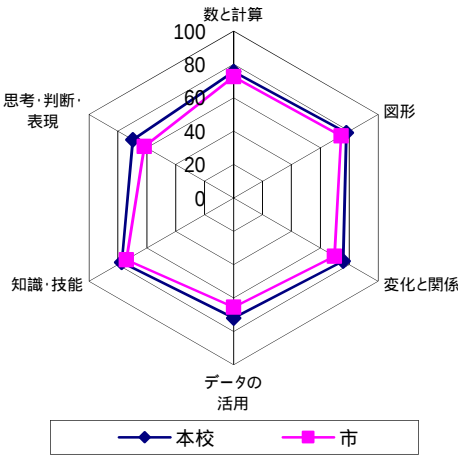
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○ 市の平均を3.3ポイント上回っている。特に、「日本の周辺の海洋名について理解する」問題においては、74.4%と市の平均よりも4.6ポイント以上上回っている。	・今後も地図帳や資料集等を活用するだけでなく、プリント学習も取り入れ、国土に関する資料や問題に触れる時間を増やしたり、自主学習においても進んで取り組めるようにしたりする。また、雨温図などのグラフや表を読み取れるようになるため、授業中にじっくり時間をかけて指導していく。
農業や水産業	○ 市の平均を1.4ポイント上回っている。特に、「米づくりの作業の理解をもとに、資料を読み取る」問題においては、85.4%と市の平均を2.8ポイント上回っている。	・身近な農業や水産業のニュースや新聞などの複数の情報を紹介するなどし、食料生産に関して興味・関心を高められるようにしていく。さらに、農作業の様子の写真を見て、何が分かるかを話し合う機会を設け、理解を深めていく。
工業生産	● 市の平均を1.3ポイント下回っている。特に、「電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較する」問題においては、78.0%と市の平均を0.4ポイント下回っている。 ● 「工業製品の種類について理解する」問題における正答率は、90.2%だが、市の平均を2.1ポイント下回っている。	・社会の授業において、身近な工業製品が結びつくような話題を提示し、児童がイメージしやすい教材を用意したり、日常的に紹介したりするなどし、関心を高める。また、じっくり文章を読んで、図や表にまとめられるようにノート指導を行っていく。
産業と情報との関わり	○ 市の平均を1.9ポイント上回っている。「放送・新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断する」問題において、69.5%と市の平均を3.8ポイント上回っている。	・今後もパソコンやタブレット等の身近なものを例に、情報産業の役割や責任の大きさを、情報モラルと関連させながら、実感を伴って考えさせるようにしていく。さらに、情報化社会の急速な発展により情報管理等の危険性についても十分に指導し、情報選択能力を高めていく。
日本の政治	● 市の平均を4.5ポイント下回っている。特に、「国会のはたらきについて理解する」問題においては、45.1%と市の平均を21.7ポイント下回っている。 ○ 「三審制に着目して、国民の人権を守るための裁判のしくみについて捉え、判断する」問題においては、76.8%だが、市の平均を0.2ポイント上回っている。	・身近な政治のニュース番組を見たり、新聞を読んだりするなどし、国会の働き等に関して興味・関心を高められるようにしていく。さらに、重要語句を丁寧に説明していき、理解を深めていく。
日本の歴史	○ 市の平均を1.3ポイント上回っている。鎌倉時代の「ご恩と奉公について資料を読み取る」問題において、84.1%と市の平均を4.1ポイント上回っている。	・今後も授業を通して、年表を掲示したり、図書資料などを活用したりすることで、歴史上の人物と歴史的事項を関連させて考えられるようにしていく。また、歴史新聞作りなども継続しながら、自ら興味をもったことに対して、理解を深められるようにしていく。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.6	72.6	71.6
	図形	78.0	74.4	72.0
	変化と関係	75.9	69.8	62.6
	データの活用	72.0	65.5	59.1
観点別	知識・技能	77.4	74.1	68.9
	思考・判断・表現	69.7	61.6	63.7

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

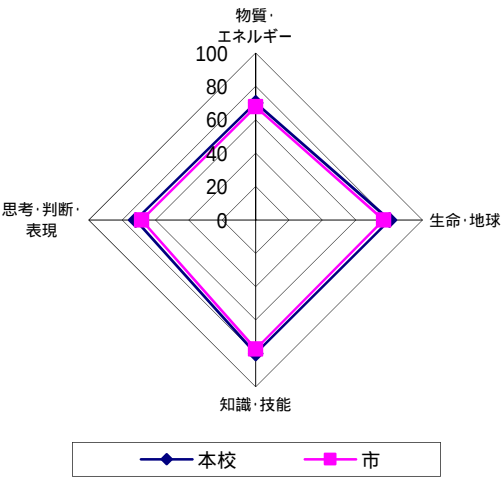
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ 図を使って文章問題に合った乗法や除法の式を選ぶ問題では、市の正答率を大きく上回った。 ● 小数÷小数の計算は、市の平均正答率を下回った。 ● 分数の四則演算に関しては、市及び参考値の正答率を下回った。 ● 2つの文字の一方の値が分かった時、もう一方の文字を求める問題では、市及び参考値の正答率を下回った。	・小数点の移動や分数の通分・約分など、基礎的な内容を復習する機会を設け、計算を速く正確にできるよう指導していく。また、公式や計算方法も確認させる。そのためには、小数や分数の計算問題などについて、朝の学習や家庭学習の課題として繰り返し問題に取り組ませるようにする。
図形	○ 正多角形の内角を求める問題や、展開図から見取図の辺の長さを求める問題では、市の正答率を上回った。 ● 図形の面積や体積を求める問題では、市の正答率を下回ったものがあった。 ● 線対称な図形において、対称の軸の本数を求める問題では、市の正答率を下回った。	・線対称な図形、対称の軸などの言葉の意味や定義を再度確認させる必要がある。 ・面積や体積の公式を確認させ、定着を図る。 ・デジタル教科書の映像や実際の図形の模型によって、具体的に分かりやすい授業を展開するなど、図形の学習の充実を図りたい。
変化と関係	○ どの問題も、市の正答率と同等、あるいは上回った。 ○ 単位量あたりの大きさの概念を使う割合、速さの内容が定着していることが伺える。 ● 速さ・時間から道のりを説明する記述問題において、正答率が53.7%と低く、無回答率も24.4%と高い。	・言葉や文章で説明する活動を充分に取り入れてきた成果であると考えられるが、速さの学習において正答率がやや低い結果となった。速さと時間・道のりの関係を文の中から読み解けるよう、引き続き指導を行っていく。 ・数と計算同様、学習した後の定着に向けて、繰り返し問題を解く機会を増やし、学力の向上に努める。
データの活用	○ どの問題も、市の平均正答率を上回った。 ○ 特に、データの見方における最頻値の理解が優れている。 ● グラフの正しい読み取り方を説明する記述問題において、正答率が41.5%と低く、無回答率が9.8%と高い。	・複数のデータを見比べたり、分析したりする活動を日頃から取り入れ、意欲をもたせたい。平均値などを求める時は、計算の仕方を工夫すると、ケアレスミスが減ると考える。順序よく計算できるよう指導していく必要がある。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.1	67.8	64.1
	生命・地球	80.3	76.7	78.3
観点別	知識・技能	80.0	77.4	78.3
	思考・判断・表現	71.9	68.3	66.2

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○ふりこのきまりの内容では、振り子の1往復する時間とおもりの重さの関係を調べる問題で、市の平均正答率を9ポイント近く上回り、よく理解できていた。 ●電流のはたらきや物の燃え方の内容では、全国や市の平均正答率に対して、下回るものがあった。特に、電磁石を強くする方法についての問題で、市の平均正答率を5ポイント下回った。	・実験等を通して、体験的に学習していく時間を充実させる必要がある。 ・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる力を高められるよう、書き方の指導に重点を置き、記述力の向上を図りたい。
生命・地球	○生物とかんきょうの内容では、市の平均正答率を10ポイント近く上回るものもあり、全体的に正答率が高かった。 ●動物のからだのつくりとはたらきの内容では、酸素が多い血液を理解する問題で、市の平均正答率を7ポイント近く下回った。	・実験ができないところに関しては、動画を活用したり、モデルを使用して視覚的に分かりやすくするなど、授業の工夫が必要である。

宇都宮市立陽東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら課題を見つけることができる児童の育成	・単元のはじめや、日々の授業のはじめに、何を学ぶかを児童に伝え、見通しをもって授業に臨むことができるようにする。 ・対話的な学習を通じて、多様な意見に触れ、自分の活動が広げられるようにする。 ・学んだことを振り返り、何ができるようになったか、今後の課題は何かを考えられるようにする。	・学習に自分から進んで取り組んでいるかの質問に対して、6年生・5年生ともに、89%の児童が肯定的回答をした。これは市の平均を約8ポイント上回っている。この項目に対する回答は、ほとんどの学年で約2～4ポイント上回った。
主体的に表現できる児童の育成	・国語科において、教材文に対する自分の考えを、ノートやワークシートに記入し、自信をもって話し合ったり、発表したりできるようにする。 ・教材文に対する意見や感想を、友達が書いたものと交換して読み合い、違いに気付いたり、共感したりできる場面を設定する。	・自分の考えを根拠をあげながら話すことができるかの質問に対して、6年生では肯定的回答をした児童が76.8%と、市の平均を約10ポイント上回っている。また、5年生では82.2%と、市の平均を約16ポイント上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語、算数、理科において、すべての領域および観点で市の平均や参考値を上回っている。今後も基礎基本を大切にしながら、発展的な課題にも取り組んでいきたい。
 ・社会において、「日本の政治」の分野で市の平均を5ポイント下回った。現6年生にはこの分野の復習を行うとともに、来年度以降の6年生にも、しっかりと学習に取り組ませたい。
 ・どの教科・領域においても、学力の2極化が伺える。一人一人にきめ細かに個別指導を行うことが必要である。
 ・新年度からGIGAスクール構想が導入され、一人1台の端末による学習活動が始まる。まず、端末を日常的に利用することを目標にしたい。更に、教科の学びを深め、学びの本質に迫れるような活用法について、研修や実践を通じて研究していきたい。